



～昭和薬科大学・臨床心理学研究室 & 町田子育て相談センターとのコラボ事業～

昨年度に引き続き、今年も昭和薬科大学の授業に赤ちゃんがやってきました。結婚、出産、育児など現代社会は家族のあり方もひとの人生のありようも多様であり、必ずしも子どもを持つとは限りません。大学生は「ことな世代」。子どもと大人の間をつなぐ世代でもあります。子どもと触れ合い、子育て中の親御さんや自治体の子育て支援の専門家から話を聞くことで、将来薬剤師になった時にも役立つ体験を得られると思います。

9月にお薬相談カフェを開催し、さらに子育て相談センターから周知してもらったところ、受付からまもなく授業参加の申し込みは定員に達してしまいました。そのあとも申し込みが相次ぎ、キャンセル待ちの状態に。センターの方が申し込み理由を尋ねると親御さんからは「子育ての経験を大学生に伝えたい」ということばが。大学での体験は大学生だけではなく、親御さんにとっても社会貢献の機会として機能できていたのです。また、薬剤師の先生も4名が学外から1名が学内から参加し、お薬相談に備えました。この企画は、町田市子ども生活部子育て推進課・町田地域子育て相談センター、有志の薬剤師の先生方のご協力を受けて実現しました（地域連携推進事業計画のプロジェクトとして行なっています）。また株式会社希松さまよりスキンケア関連の資料提供をいただきました。授業のサポートは臨床心理学研究室の5年生が行いました。

### <お薬相談カフェ@すずらん>

医師にはなかなか聞けない、ちょっとしたお薬のこと、健康のこと、病気のことについての質問を気軽に行えるカフェ活動の様子。昨年度から地域連携推進事業計画の一環として町田市との協働で行なっており、今年度は9月20日に開催しました。11月には薬剤師が5名参加し、万全の体制で相談に答えました。



### <子育て相談センタースタッフからの子育て支援の仕組みの説明>

カフェ会場から教室へ移動する場面（左）。見慣れない赤ちゃんの姿に廊下では驚く学生・教員も。去年は抱っこで参加した子どもが今年はヨチヨチ歩きで参加してくれました。右は子育て相談センターからの説明の様子です。町田市では国の施策として推進されている切れ目のない支援を保育園と相談センターが連携して行なっています。アクセスしやすい近隣に支援拠点活動を展開するシステムがよく機能しています。



## <ふれあいタイムの様子>

最初はこわごわさわっていた学生たちも親御さんに促されて抱っこに挑戦。泣かれて戸惑ったりしながら、だんだんリラックスしてふれあいを楽しむことができました。親御さんたちも学生からのさまざまな質問に、育児経験を振り返ったり、若い子はそのようなことに関心を持つのかと、驚いたりして、答えていました。





兄弟連れての参加やパパの参加もあり、学生は多様な育児の現状を知り、貴重な学びを得ました。

